

## ハウスミカン園における銅・亜鉛欠乏対策

農業研究センター 果樹研究所 病虫化学部

担当者：相川 博志

### 研究のねらい

ハウスミカン園の実態調査の結果、ほとんどの園において葉中無機成分の銅、亜鉛が欠乏していた。銅欠乏樹は全体がわい化し、収量が減少する。亜鉛欠乏樹は枝の節間がつまり、葉は小葉となってそう生する。

この対策として、展葉期に銅剤と硫酸亜鉛の葉面散布を行い、葉中無機成分を適正な状態にする。

### 研究の成果

- 銅剤（Z ボルドー：600 倍）を展葉期に葉面散布することで、葉中銅含量は適正量（5～25ppm）となる（図1）。
- 硫酸亜鉛（0.3%）を展葉期に葉面散布することで、葉中亜鉛含量は適正量（25～50ppm）となり、銅剤（Z ボルドー：600 倍）と混用することで、その効果は助長される（図2）。

### 普及上の留意点

- 銅剤（Z ボルドー）はかいよう病防除の薬剤として登録されており、散布濃度、散布時期に注意する。
- 銅剤を散布する場合、銅の薬害軽減のため炭酸カルシウム剤を混用する。
- 銅剤を年2回以上散布する場合、葉中銅含量が適正量を超え、銅の薬害が出る恐れがある。
- 露地ミカンの銅、亜鉛欠乏に対しても、同様にできる。

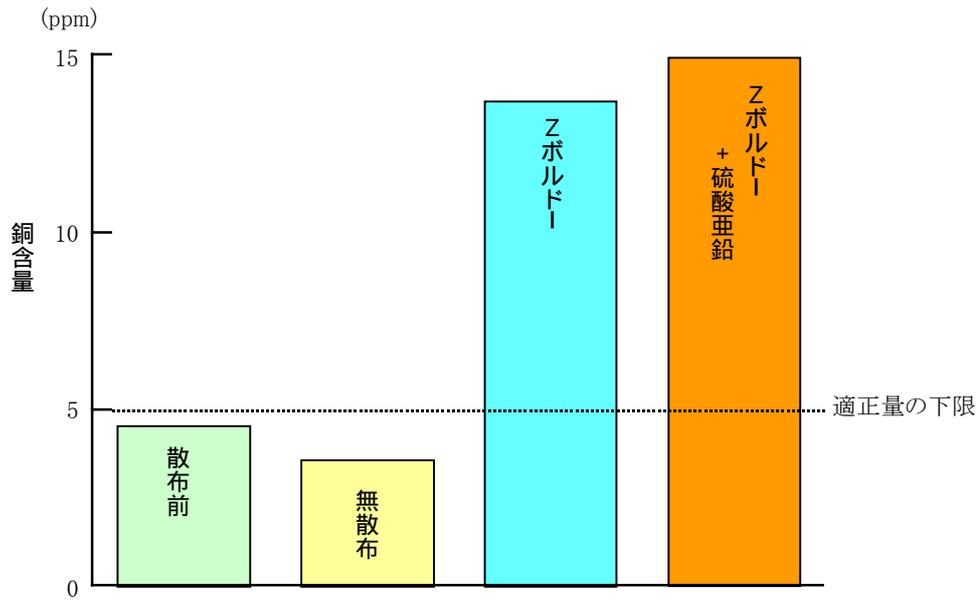


図1 葉面散布が葉中銅含量に及ぼす影響

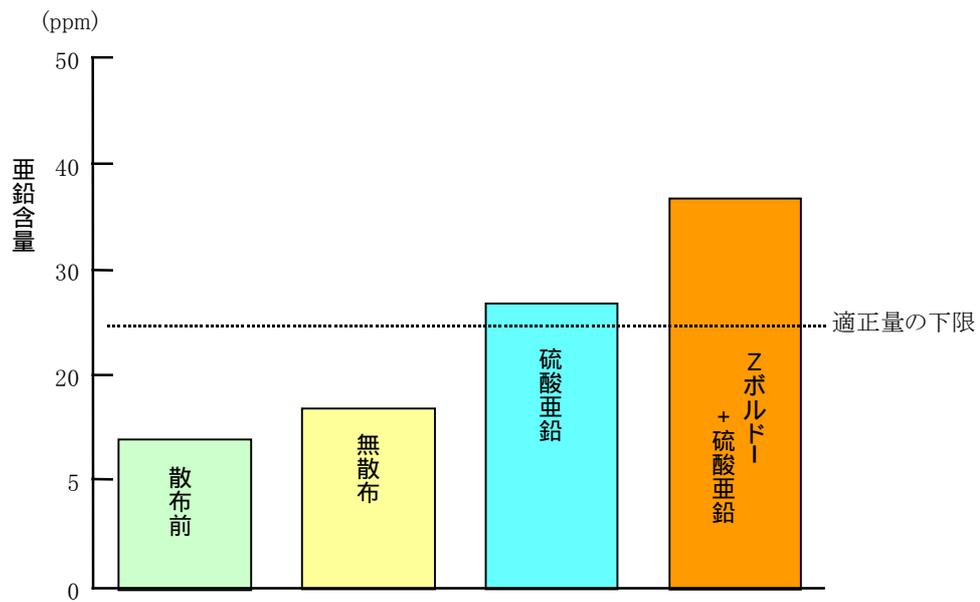


図2 葉面散布が葉中亜鉛含量に及ぼす影響

注) 散布日: 平成8年11月12日, 平成9年1月8日